

令和6年度 県立下妻第一高等学校自己評価表

目指す 学校像	学校教育目標 ○「文武不岐」実践のもと、知・徳・体を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成 ○グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ精神」を持った生徒の育成 目指す学校像 ○様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校	
三つの方針		具体的目標
「三つの 方針」 (スクー ル・ポリ シー)	「育成を目指す資質・能力 に関する方針」 (グラデュエーション・ポ リシー)	校訓に掲げる校規五章及び綱領三徳目を踏まえ、地域社会の要請や生徒の実態に基づき、127年の歴史と伝統を継承しつつ、新たな校風を確立し、社会に貢献できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材の育成 (1) 高い理想と旺盛な探究心を持って学習に精励する生徒 (2) 集団の規則を遵守し、確固たる責任感をもって自律的に行動する生徒 (3) 心身を鍛錬し、強靱不屈の精神をもって、不断に前進する生徒 (4) 本校の伝統的精神を生かし、愛校心を持った全人的な生徒
	「教育課程の編成及び実施 に関する方針」 (カリキュラム・ポリシ ー)	(1) 生徒が能動的学習者となるような、教育内容の充実と指導方法の工夫改善 (2) 生徒一人一人に合った高いレベルでの進路希望の実現 (3) 各種学校行事及び部活動の充実 (4) 安全教育、健康教育、人権教育、心の教育、主権者教育、道徳教育、情報モラル教育による豊かな人間性の育成
	「入学者の受入れに関する 方針」 (アドミッション・ポリシ ー)	(1) 本学の学びに対する興味関心が旺盛で、深く探究しようとする強い意欲のある生徒 (2) グローバル化する社会の様々な事象に関心があり、英語等の言語習得及び異文化理解に積極的に関わろうとする生徒 (3) 自分の進路実現に向かい、挫折や失敗を恐れず、主体的に努力を継続することができる生徒 (4) 学校行事、生徒会活動、部活動などにリーダーシップをもって積極的に取り組む意欲のある生徒

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>地域社会に期待される学校として、文武不岐を実践し、生徒の進路希望の実現を目指している。</p> <p>進学実績としては、国公立大学合格者数が北海道大、東北大、名古屋大、筑波大（16名）を含む130名であり、現役生が合格した国公立大学に進学する割合も88%ときわめて高く、「進学を前提とした受験指導」が実現されている。</p> <p>部活動の実績としては、女子バスケットボール部がウインターカップでベスト16に入るなど、確実に成果が出ている。</p> <p>光プロジェクトに関しては、本校探究学習の一角を担う重要な活動として存在し、参加した生徒の肯定的回答が92%を超えているように充実期を迎えている。しかし、学校評価アンケート（光プロジェクトに積極的に参加）の肯定的回答は5割を下回っている。今年度は情報発信を工夫し、さらなる参加を促した上で、7本柱を軸に総合的な探究の時間、各教科の探究活動と連動させていく。さらに、生徒の進路目標実現のため、</p> <p>（1）アントレプレナーシップ教育の推進</p> <p>（2）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>（3）教師の指導改善、生徒の学習改善を充実させるための「指導と評価の一体化」を図っていく。</p>	探究的な学びの推進	① 自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジし、他者との協働により解決策を探究することができる知識・能力・態度を身に付ける教育（アントレプレナーシップ教育）を推進する。	A
	授業改善による学力の向上と進路指導の充実	② ICT（1人1台端末等）の活用により、協働的・探究的な学びを推進するとともに、個に応じた柔軟かつ多様な指導を充実させる。さらに、習熟度別授業を取り入れ、理解が不十分な生徒への対策を強化する。	A
	特別活動の活性化と健全な心身の育成	③ 確かな学力（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）をバランス良く育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上（授業改善）を推進し、魅力ある授業を実施し、「授業満足度」の平均値3.0以上を目指す。	A
		④ 指導と評価の一体化（観点別評価の充実）を実施する。また、新教育課程や新入試はもとより、大学・研究機関・企業等が導入している新しい学問分野についての研究を更に深め、それらの動向に即応した指導のあり方を追究していく。	A
	人間尊重の精神の涵養と規律ある生活習慣の確立	⑤ ホームルーム活動や学校行事、部活動等への積極的な参加を通して、強い精神力や協調性、自主自律の精神を育む等健全な心身の育成を図る。またキャリア・パスポートの活用を推進し、生徒が自ら活動を振り返り、検証する姿勢を育てる。	A
		⑥ 学校行事の改善充実を図るとともに、生徒の自主的活動を支援していく。	A
		⑦ 茨城県および本校の部活動運営方針に則り部活動の活性化を推進し、1年生の部活動加入率90%以上を維持する。	A
	環境美化を通じた心の教育	⑧ 外部指導者の活用や指導者講習会等への積極的な参加を奨励し、生徒の安全面・健康面に配慮しながら指導力向上を図り全国大会など県外大会出場を目指す。	A
		⑨ 自律の精神や自己指導能力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。	A
	広報活動の推進と地域との連携強化	⑩ 規範意識の高揚を図ると共に、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者0名を目指す。	A
		⑪ 基本的生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者100名以上を継続する。	A
		⑫ 清掃活動の徹底を図り、環境美化に対して主体的活動ができる態度の養成に努める。	A
		⑬ ホームページやSNS等を活用し、積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。	A
	いじめの未然防止、早期発見、早期解消の確立	⑭ ボランティア活動への積極的な参加を推進し、地域との連携強化を図る。	B
		⑮ 学校説明会の充実と努めると共に、小学校・中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。	A
		⑯ 学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。	A
		⑰ 授業やHR活動などあらゆる教育活動を通して、他人の痛みを知る能力や自己教育力を高め、いじめを生まない環境を作る。さらに生徒のささいな変化（違和感）を見逃さないよう、生徒をよく観察するとともに、定期的な個別面談を実施し、教職員と相談しやすい関係の構築に努める。	A
		⑱ 生徒の命を守るため、いじめ等の事案に対しては校内連携（複数対応）を図り家庭との連絡を密にする。また、必要に応じてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・外部機関等と連携をしていく。	A
	教職員の健康保持	⑲ 情報モラル教育を推進し、SNS等を通じて行われるいじめの早期発見に努める。	A
		⑳ デジタルを活用することで諸業務の効率化を推進し、それぞれの立場で小さな改善を積み重ねる。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	基礎学力の充実・向上を図る。	朝の小テストを実施し、語彙力等の基本的な国語力を身に付けさせ、不十分な生徒には課題等を用いて基礎学力の向上を図る。 ③④	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的な活用。 ・漢字の書き取りが苦手な生徒への対応。
		自主学習の習慣を確立する。	休業日前あるいは長期休業の前に課題を提示したうえ、休み明けに点検し、さらに、確認のテストを実施するなどして家庭学習の習慣を付ける。 ③	A		
		授業改善を行うことで、生徒の学習意欲を喚起する。	放課後または長期休業中に課外を実施する。3学年においては進路別、学力別を実施し、自分の目標や学力に応じて学習をする機会を増やし、進路実現に向けて努力を促す。 ①③④	A		
			主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、表現や意見を発表する機会を増やすとともに、アントレプレナーシップ教育を推進する。 ①③	B		
			ICTの活用を通して、協働的・探究的な学びに対する積極性を育てることや、業務の効率化を模索することにつなげる。 ②④⑤	B		
			読書や小論文作成の時間を設定し、自己を取りまく環境や社会に対する幅広い関心を育て、そこから国語に対する学習意欲をさらに喚起する。 ②③④	A		
地歴公民	授業改善による基礎学力の充実・向上を図る。	小テストの実施や準拠ノートなどの利用で、知識の定着度を定期的に確認する。 ③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程入試の動向変化の把握及び臨機応変な対応。 ・上位層の更なる読解力・論述(記述)力強化。 ・下位層の生徒に対する学習支援の在り方。 ・早期進路決定者に対する科目としてのアプローチ。 	
		授業改善を行った上での計画的な授業指導のもと、教科書をしっかりと計画期限内に終わらせることを心掛ける。 ①③	A			
	大学入試や大学での講義に対応できる学力を身に付けさせる。	授業改善を行うことで、平常課外やハイレベル課外、夏季休業中や冬季休業中の課外等を通じて、大学入学共通テストをはじめ、国公立大学の個別試験や私立大学の一般入試に対応できる学力を付けさせる。 ②③④	A			
	生徒の表現力を育成する。	プリントや地図、資料集などを使用し、多くの教材を活用することで、生徒が自ら意欲的に授業に参加できる体制を整える。また、相互授業参観を通して、より良いアクティブ・ラーニングを実践し、生徒自ら考える授業を展開する。 ①③④	B			
数学	基礎学力の充実・向上を図る。	定期考査に加えて、適宜単元テストを実施する。さらに、学習内容の定着が不十分な生徒には、個別指導や課題等により適切なフォローを行う。 ②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・附属中から進級してくる生徒の指導について、継続する部分と変える部分を考えていく。 ・定期考査の追試に変わる、成績不振者への指導。 ・難関大進学に向けた教科指導。 	
		週末課題を課すことで、学習を習慣化させる。また、課題の内容から小テスト及びその追試験を実施することで、学習内容の定着状況を把握させ、学習法の見直しに繋げる。 ③	A			
	自主学習の習慣を確立する。	教科書傍用問題集を週末課題とし、定期的に確認を行う。 ③	A			
		各単元において、指導と評価の一体化を実現する。振り返りをさせることにより自分に必要な学習内容を意識させ、自主的学習を促す。 ①③④	B			
	授業改善を行うことで、生徒の学習意欲を喚起する。	課外等を利用して、ハイレベルな問題や教科書の内容を超える問題も扱い、深く思考する時間をつくり、応用力の養成と興味関心の喚起を図る。 ①③	A			
		アクティブ・ラーニングやICTを導入するなど、授業方法の工夫に努め、魅力のある「わかる授業」を実践する。 ①②③④	B			
理科	生徒の学習意欲の喚起を図る。	授業方法を研究し、生徒が主体的、対話的に学べるような授業を展開する。 ①②	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用端末の活用頻度を多くする。 ・理系の生徒数が多いので基礎学力をより向上させる。 ・実験の時間を確保する。 	
		生徒用端末の活用法を研究し、協働的・探究的な学びを促す学習指導に取り組む。 ①③	C			
		授業に実物に触れる機会を設け、生徒の興味・関心の向上を図る。 ①⑤	B			
	授業改善をおこなうことで、基礎学力の充実・向上を図る。	ICTを活用し、わかりやすい授業を展開する。 ③	B			
		カリキュラムマネジメントに努め、学習指導および学習評価の改善を図る。 ④	B			
小テストや課題を適宜活用し、基礎学力の向上を図る。 ④	B					
保健体育	基礎学力の充実・向上を図る。	毎時間、ワークシートに記入させ振り返りをさせる。スキルテストを定期的に行う。 ①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上を、さらに目指す。 ・ICT活用の推進。 	
		自主学習の習慣を確立する。	保健ノートを活用させる。各自の端末を活用し、自らから調べた事を発表し共有させる。 ①②③④			A
	授業改善を行うことで、生徒の学習意欲を喚起する。	毎時間、授業内容に沿った問題を提議し、自らの考えを記述させる機会を設ける。 ①③	A			
		技術や試合について記録させ、次回の活動に反映させる。 ①②③	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	芸術	授業改善をおこなうことで基礎学力の充実・向上を図る。	教材内容を精選し、教師自らが授業の中で実際に範を示すことを含め、アクティブ・ラーニングを取り入れながら生徒の感性を刺激し育むことに留意する。①③	A	A ・実技・意見・感想など、ICTを使用しての発表の機会を増やすことができた。 ・ICTを生かした授業内容の改善を充実させ、探究的な学びをより深めていきたい。 ・鑑賞学習に力を入れ、豊かな感性の育成に努める。
		生徒の学習意欲を喚起する。	個に応じた指導充実を図り、個々の学習状況を細やかに見取りながら適切な評価に努める。②④	A	
		直に芸術作品に触れる機会を提供し、感性を育む。	表現する場や意見を発表する機会を増やし、主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。①② ICTを効果的に活用した授業を研究し、協働的・探求的な学びにつながる授業展開をするとともに、アントレプレナーシップ教育を意識した柔軟かつ多様な指導を充実させる。①②	B	
			教師自ら、芸術分野の研修・研究に努め、生徒が芸術作品のよさを感じられるよう直に作品に触れる機会を提供するなど鑑賞学習を充実させ、表現の魅力や楽しさを伝える。①③	B	
英語	授業改善を行うことで基礎学力の充実と向上を図る。	単語集や問題集を活用して毎週小テストを実施することにより語彙力や文法力を高める。③	A	B ・ALTが2名に増えたことによる授業でのALTの活用を工夫する。 ・模試の結果を分析して授業の改善に生かす。 ・ICTをさらに活用し授業を改善する。	
		各教員が創意工夫し授業改善を行いつつ、基礎基本を徹底した指導に積極的に取り組み、言語能力の定着を図る。②～④	A		
		探究的な視点に立ち、自ら考え他と協働しながら問題解決に向かって行動できる生徒の育成を図る魅力有る授業を実施する。①～④	A		
	自主学習の習慣を確立する。	適切な課題を長期的計画を基に実施し、生徒の学習実態を把握し家庭学習を習慣化する。②④	A		
	生徒の学習意欲を喚起する。	ICTを活用して海外の新聞、ニュース等の「メディアの英語」に触れる機会を作ることで生徒の英語学習意欲を喚起し、幅広い知識と実践的な英語を身につけさせる。②～④ 英語関連の外部試験の受験を推奨し、その試験対策指導を教員間の連携の元に行う。④ スピーチ等の自己表現力を伸ばす指導を取り入れ、思考力・表現力・主体的に学習に取り組む態度を育成する。またその過程を観点別評価として適切に取り入れる。②～④	B A B		
家庭	主体的学習を促すよう授業内容の精選・授業改善を図る。	体験レポートの実践、ホームプロジェクトの実践を通し、アントレプレナーシップ教育を意識しながら、主体的な学習態度を促す。①②④	A	A ・「主体的・対話的で深い学び」をより進めていけるよう、タブレットの活用も含め、授業内容・学習形態の工夫をする。	
		「主体的・対話的で深い学び」を目指し、授業内容を精選し、アクティブ・ラーニングの授業充実を目指す、学習形態を工夫する。①②③	B		
	自立を目指し、生活力の向上を図るための知識や技術を身に付ける。	調理実習・被服作品製作実習・その他の体験学習を積極的に取り入れ、家庭生活に必要な知識や技術の習得を図り、実生活に役立てられるようにする。①②④	A		
情報	授業改善を行うことで、基礎学力の充実・向上を図る。	個に応じた指導を通して、コンピュータ利用の円滑化に努める。②	B	B ・共通テストを見据えた講義と実習のバランスに工夫を加える。	
		新教育課程、大学入学共通テストについての研究を深め、それらに即した指導の在り方を追究する。②③	B		
	探究的な学びを推進する授業を行う。	情報教室の生徒用端末を使って収集したデータを解析し、まとめて発表させる授業を展開する。①③	B		
	情報モラルを確立する。	安全なインターネットの使い方及び情報モラル指導の充実を図り、ネットトラブルの未然防止に努める。⑱	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	授業改善による探究的な学びの推進を図り、(アントレプレナーシップ教育の推進)指導と評価の一体化を目指す。	探究的な視点に立ち、自ら考え、他と協働しながら、問題解決に向かって行動できる生徒の育成を図れるような魅力ある授業を実施する。 ①～④	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教務全体の打ち合わせが足りない。 ・授業変更簿や定期考査の実施方法、特に追考査の受験条件などについては、改善が必要。 ・ICT推進や働き方改革等に伴う業務の簡略・効率化と、生徒にとっての学習環境の質の担保を両立させていきたい。 ・定期考査日程で、午後の実施は無くすように検討する。 ・月曜日課関連の授業変更について、混乱がみられたので、変更該当者への周知を徹底し、生徒の学習への悪影響を避けたい。
		授業担当者の出張・年休等に際しては、授業の振替を徹底する。また、急な変更が生じた場合にも、学年や教科等の協力を得ながら、授業時間の確保に努める。 ①～④	A	
		授業改善推進プロジェクトを有効活用し、授業改善を推進する。 ①～④	B	
		生徒による授業評価アンケート、学校評価アンケートの結果を授業改善に活用する。 ①～④	A	
		各教科と連携し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点評価についての研修を進めていく。 ④	B	
	校内諸データの整理と活用を進める。	授業の開始時刻及び終了時刻の厳守に努める。 ①～④	B	
		学校全体に関わる統計データの収集・管理を的確に行う。 ⑬⑮⑯⑳	B	
		進路指導部や各学年と協力しながら校務支援システムを有効活用し、考査等の処理、指導要録・調査書の作成をミスなく行う。 ⑳	B	
	学校広報活動の充実に努める。	資料等のペーパーレス化を検討する。 ㉑	A	
		魅力あるスクールガイドを作成し、学校説明会・学校公開等で活用する。また、学校説明会等では、中学生にわかりやすく、本校の特長が最大限アピールできるように努める。 ⑬⑮	A	
学校HPを広報活動に活用するため、組織的(HP管理委員会)にHPを管理する。 ⑬		A		
小学校・中学校・学習塾等と連携することで、学校の広報活動を推進する。 ⑮		A		
生徒指導	基本的な生活習慣を確立する。	登校指導及び巡回指導を通して校則の遵守(特に服装)と挨拶の励行を徹底させる。 ⑩	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での事故を未然に防ぐための指導。
		全職員が共通の認識を持って指導に当たる。 ⑨⑪	B	
	心の教育(規範意識とモラルの向上)を推進する。	高校生さわやかマナーアップ運動を通じて規範意識の向上を呼びかける。 ⑩	A	
		いじめが起こらないように級監、授業担当者を中心に生徒たちの様子を観察し、面談等で生徒が相談できる時間をつくる。心のケアのためにスクールカウンセラーの活用も勧める。 ⑱⑲	B	
	交通安全教育を推進する。	携帯安全教室等を通して、情報モラル教育の充実に努める。 ⑲	A	
バイク・自転車点検を年間行事予定に組み込むと供にバイク通学者実技講習会を実施し、交通安全に努める。 ⑨		A		
渉 外	P T A活動の充実に努める。	集会等で交通マナーに関して注意し、交通安全を呼びかける。 ⑨⑩	A	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A活動の、簡略化と充実に努める。
		P T A総会を、I C Tを活用し、より効率的に開催し、PとT両方の負担軽減をはかり、有益なものにする。 ⑯	A	
特 活	伝統校の磨き上げを行い、帰属意識・協調性の涵養に努める。	保護者も楽しめるようなP T A活動を進め、広報活動を充実させる。 ⑯	A	<ul style="list-style-type: none"> ・下妻一高のブランド力を高める活動を、さらに進めていく必要がある。他校との差別化や、学校の魅力もより高めていく活動をする。 ・文武不岐を高いレベルで実現できるようにするため、部活動の活性化を促す。
		下妻一高のブランド力を高める活動や生徒会を主体とした行事を通して、学校行事の企画・運営に参画し、これを実践する能力を養う。 ①⑤⑥	A	
	校内等の美化・校内外のボランティア活動を通し、ボランティア精神を育成する。 ⑫⑬⑭	B		
	生徒の自主的活動の機会を増やす。	定期戦、為桜祭、為桜オリンピック、踏破会等の学校行事を通して、成就感・達成感を体験させ、併せて学校やクラスの連帯感を養うと共に、学校生活の活性化を図る。 ⑤⑥	A	
	部活動への積極的な取り組みを促し、心身を鍛え、文武不岐の精神を養う。 ⑦⑧⑳	A		
自尊感情を育み、周囲と円滑な生活を送る。	ホームルーム活動、学校行事等を通し、他者に対する寛容な姿勢を身に付けると共に、協調性を育てる。 ⑤⑥⑨	A		
生徒が様々な役割や価値を自ら判断できるよう、振り返りを大切にす。	ホームルーム活動を中核とし、学校行事全ての教育活動において、キャリア・パスポートを利用して生徒が自己評価できる場면을組織的に働きかける。 ⑤⑨	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の能動的な進路選択を促すための各種支援を積極的に実施する。その目標を達成するための方策として、「光プロジェクト」を推進する。	「学びの基礎診断」(スタディサポート等)を活用して、各生徒の進路希望の動向や学習状況等の把握に努め、適切な指導・助言、および評価を行う。③④⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の模試結果の共有方法を統一した方がよい(PDF共有すれば全職員が目を通すことができる)。 補習や夏季課外の出欠状況等を確認し、方法を検討する必要がある。 3年次の学校実施模試の回数。難関大だけでなく、外部で受験させる回があってもよい。 模試監督の調達にかなり苦労した。1日・半日問わず引き受けてくれる卒業生が減っている。 出前授業において、オンラインでの講義にライブ感がなく、公式動画のようになってしまった部分があった。双方向性を持たせる等の工夫が必要である。
		光プロジェクトの進路探究、教育学部進学支援等の実施を通じて、各生徒の職業観の育成を図るとともに、自ら見出した社会課題の解決を意識した進路決定を促す。①⑤⑥⑨⑭	B	
		「大学進学要覧」等の資料を活用して、卒業生の大学入試に関する数値的情報や経験談を在校生へと還元し、併せて在校生向けの「卒業生との懇談会」を企画する。またホームページの活用を通して、進路情報の発信に努める。⑤⑥⑬	B	
		オープンキャンパスや外部模試への参加を促すとともに、出前授業、進路講演会等を実施し、大学入試に関する早期の意識づけを図る。また、「東大金曜講座」受講やデータサイエンス講習会への参加を通じて、高度な学問分野に対する関心・意欲を刺激する。①②③⑥	A	
		大学入試の多様化に対応すべく、様々な入試方式に応じた指導体制を整え、大学入学共通テストや新学習指導要領に関する研究・研鑽に努める。②③④	B	
		職員進路検討会を実施し、生徒の進路希望や現況を職員間で共有することで、個々の生徒に対しより高い目標設定を促す。また、年度末に職員進路情報交換会を実施して、第3学年団の指導の成果および反省点を次年度以降へと継承する。②④	B	
	学習指導・進路指導に関する研究を進め、指導の改善に努めることで、生徒の学力向上を図る。	学習館の適切な管理を通じて、生徒へより良い学習環境を提供する。同時に生徒の自学自習の習慣化を図る。⑤⑥	B	
		平常課外や長期休業中課外、難関大学志望者向けの学習方法講演会を実施し、生徒の学習活動の発展・深化の契機とする。②③	B	
		英語の外部検定試験受験やスピーチコンテストなど、4技能の習得を意識した生徒の英語力向上を後押しするとともに、国際的な視野を持った生徒の育成を図る。②③⑥	A	
		高大接続改革の流れを見据えて、職員が進学指導研究会や各種セミナーに参加し、情報収集と指導力の向上に努める。得られた情報は、HR、集会、面談などあらゆる機会を捉えて、生徒及び保護者に還元する。②③⑤⑥⑬⑯	B	
図書	図書委員会活動の充実を図る。	図書委員会活動を活発にし、学校外の行事にもより多く参加できるように企画し、実施する。①⑤⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> 電子書籍の活用率の向上。 県西地区図書委員研修会の円滑な開催。
		ビブリオバトルの企画・運営、為桜図書の発行を通して、生徒の自主的活動を支援する。①⑤⑥	A	
	図書館利用を促進する。	広報活動を充実させ、図書館と蔵書(電子書籍)の活用率の向上を図る。①③④⑬	A	
		授業時や探究活動時の図書館の利用と活用拡大を各学年・各教科に働きかける。①②③④	A	
		推薦入試対策や小論文対策等の推薦図書のコーナーを充実させる。②③④	A	
		アントレプレナーシップに対する理解を促進させるため、関連図書を充実させる。①③⑤	A	
	図書館の環境美化に努める。	生徒や教職員のニーズに応えられるよう、リクエスト用紙や蔵書検索を活用する。①②③④	A	
図書館内を落ち着いて思索する空間として利用できるよう整え、心の教育の一助とする。⑤⑨⑫⑯		A		
保健環境	保健室の適切な運営に努めると共に、生徒の心身の健康維持を図り、健全な学校生活を送れるよう支援する。	健康診断、保健調査、献血活動協力を適確に実施する。⑤⑨⑪⑫	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、1年生の性教育講話と薬物乱用教室をマンネリ化しないよう充実したものにする。 熱中症対策や感染症対策として、体育館や教室の温度管理や換気等に注意する。 校内の美化や衛生環境作りを徹底しておこなう。特に、トイレ清掃に力を入れる。
		保健室での傷病者の救急処置や休養指導を適切に実施する。⑫	A	
		専門家と連携し、性教育指導や心の教育を実施する。⑤⑨⑪⑫	A	
		生徒のインフルエンザ等の感染症の状況を迅速に把握し、適切な対策指導を行う。⑫	A	
		健康相談により、生徒への精神的なフォローをすると共に、いじめの早期発見に努める。⑯⑰	A	
		トイレ、手洗い場等の衛生状況を定期的にチェックすると共に、洗浄液の補充を行う。⑪⑫	B	
	学習環境の整備に努める。	学校薬剤師と連携し、教室等の学校環境衛生に配慮する。⑪⑫	A	
		清掃用具の調査・補充・管理に努め、清掃指導を徹底し、意識の改善に努める。⑤⑨⑪⑫	A	
	生徒の安全確保を確立する。	各教室設置の黒板消しクリーナーを週1回洗浄し、大掃除では床のワックス掛けを実施する。⑤	B	
		エアコンやファンの正しい使用法を徹底し、安全管理に努める。⑤⑨⑪⑫	A	
	1学年は春季、全学年は秋季に防災訓練を実施し、非常時の安全対策を行う。⑤⑨⑪⑫	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
I C T	校務支援システムの適切な管理と運用	指導要録や調査書の作成、成績処理が円滑に行えるように、各学年や進路指導部、教務部と連携する。④⑫	A	A ・ I C Tを活用した授業改善や情報セキュリティの向上を目指した研修会等の充実。 ・ 学校ホームページの更新等に関する各校務分掌・各学年との連携。
	教育セグメント及び教育情報ネットワークアカウントの適切な管理と運用	第1学年と連携し、教育情報ネットワークアカウントの登録、M A Cアドレスの登録を行い、学習者用端末の円滑な利用を支援する。②	A	
	校務セグメントの適切な管理と運用	1人1台端末の活用について広く情報を共有し、授業改善に生かせるように校内研修会を実施する。②	B	
	校務セグメントの適切な管理と運用	P Cなど I C T機器の整備、サーバーの管理を行う。⑫	A	
	校務セグメントの適切な管理と運用	共有ドライブ(フォルダ)のセキュリティ設定を改善する。⑫	A	
積極的な情報発信のための環境整備	情報セキュリティ校内研修会を実施する。⑫	B		
		ホームページの改善、YouTubeやS N S等の活用について研究し、必要な環境整備を行う。⑬	A	
探究	総合的な探究の時間～為桜タイム～の充実を図る。	探究スタッフと各学年主任との探究部会を定期的に行い、生徒にとって最適な活動を企画実行するよう努める。①②⑤⑥⑬	A	A ・ 外部のサポートを受けながら高1生に探究活動の意義・基礎を学ばせる。高2生に対しては「探究深化型」と「志望校探究」(プレゼン特化、ビブリオ特化、英語スピーチ特化など)を選択させる。 ・ 留学生を受け入れる場合の校内受け入れ体制の構築。 仏エソンヌ県との交流内容のブラッシュアップ。 ・ 鮮度の高い情報をこまめにアップデート。
		評価および振り返りの方法を工夫し、自己の在り方・生き方についての思考を促す。①⑨⑰	B	
		各界の著名人を講師として招き、新しい物事の見方、考え方について知り、生徒が独自の(オンラインの)アイデアについて探れるよう促す。①②⑤⑧	A	
		外部機関等との連携を強化し、視野の拡大を図るとともに探究活動の深化を促す。①④⑬	A	
	英語力の向上および国際的視野の育成を図る。	I G P海外派遣事業を実施し、実践的英語力の向上および国際的視野の育成を図る。①⑥	A	
		スピーチコンテスト等外部大会への参加を促すとともに、生徒へのサポートを充実させ、上位への入賞を目指す。①⑥⑧	A	
		仏エソンヌ県との交流事業をより活発なものとし、生徒の国際理解をより深める。①⑥	A	
開かれた学校づくりに資する。	J I C Aの国際交流事業や県主催の国際理解に関するセミナーへの参加を促し、国際理解教育を推進し、世界で活躍する人材育成の第一歩とする。①⑥	B		
	生徒の活動状況をホームページ等で紹介し、対外的な情報発信に努める。⑬	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	高校生としての学習習慣を確立させ、基礎力の定着を図る	授業を中心とした「予習→授業→復習」の学習サイクルを促し基礎力の定着を図ると共に、アクティブラーニングなど発展的な内容を能動的に学習する機会を設けることで、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。 ①③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面では、授業だけでなく家庭でも積極的に学習に取り組むことが出来た生徒が多かったことは良かった。しかし、部活動との両立に悩む生徒や学習へのモチベーションが上がらない生徒もいたので個別にフォローしていく必要がある。 ・推薦入試や総合型選抜で大学入試にチャレンジする生徒が今後増えてくると考えられるので大学で勉強したい分野やそれに関連する内容を探究活動で生徒が主体的に調べたり、学んだりする活動を増やしていきたい。 ・イングリッシュセミナーを通して国際意識を高めただけでなく、クラス内の良好な人間関係を築く機会にもなったので良かった。良い研修にするためにも事前学習や事後学習が必要である。ただし、企画する先生の負担やバス代の高騰もあり今後のやり方については検討する必要がある。 ・HPへの写真掲載については学年やICT部でよく確認して掲載できた。入学時に同意書で写真掲載に同意していない生徒もいるので積極的にHPに情報発信するのもいいが注意も必要である。
		学習課題を適切なタイミングと内容で提示することで、生徒の学習活動を継続的かつ発展的なものとする。 ③	A	
		スタディーサポートや模擬試験の際には振り返りを行い、自分の弱点や課題に気づかせ、着実な学力の向上を図る。 ②	A	
		定期考査や課題テスト以外にも小テストや単元テスト等を実施して、生徒の基礎学力の定着度を丁寧確認していく。また、成績不振者に対しては、追試や補習を実施して学力の底上げを行う。 ③	B	
		長期休業中や土曜日に課外や補習を実施し、弱点補強や応用力の強化に努める。 ①③	A	
	生徒一人ひとりの能力や適性に応じた進路目標の早期設定を図る。	大学説明会、外部講師による講演会などの進路活動を通して自己の将来への関心を高めることで学習への意欲を刺激し、ひいては適切な学問、学部・学科、職業選択に繋げる。 ④⑤	B	
		進路意識・学習状況・生活実態等の各種調査を実施することで生徒理解に努める。それを個別面談に生かし、学習や進路決定に対するモチベーションを高め、具体的な目標設定を促す。 ④⑤	A	
		定期試験や課題テスト、外部模擬試験などを活用し、生徒の適性、学力の把握に努める。 ③④	A	
		2年次の文理選択に向けて進路に関する教育を充実させ、生徒の進路希望、適性、学力を総合的に判断し、適切な指導を行う。 ④	A	
	基本的な生活習慣の確立と、他者の立場や気持ちに立って考え行動できるような心を養う。	家庭との連絡を密にし、生徒への声かけや面談等を随時実施すると共に、遅刻、早退、欠席の防止に努め、安定した学校生活を送らせる。皆勤者100名以上を達成する。 ⑨⑩⑪⑬	A	
		良好な人間関係の形成を支援し、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応に努める。 ⑰⑱⑲	A	
		面談を通じて生活面での生徒個々の悩みや不安を把握し、適切な指導に努める。 ⑰⑱⑲	A	
	探究活動や光プロジェクトを通して、国際感覚を養い、アントレプレナーシップ精神を育成する。	光プロジェクトへの積極的な参加を促し、自らの興味関心を高める。 ④⑤⑥	A	
		イングリッシュセミナーを通して英語への関心やスキルを高めるだけでなく、他国の文化や他国の人との関わりの中で、異文化への興味を養い国際意識を深める。また、自らの意見や考えを自らの言葉で発信する力を育成する。 ②⑥⑨	A	
探究活動等を通して、自分とは違う考えやものの見方に触れることで、生徒の視野を広げる。 ⑤⑥⑨		A		
文武不岐の実践を目指す。	各種行事、部活動への積極的な参加を促し、生徒の自主性や社会性、リーダー性の育成を図る。また、行事に参加し、それを成功させることで得られる自己肯定感や達成感を基に、クラスの連帯感を育む。 ⑤⑥⑦⑧	A		
広報活動の推進と保護者及び地域との連携を図る。	生徒の活動を積極的にホームページにて発信し、保護者や地域からの理解に繋げる。 ⑬	B		
	学年PTAを開催し、保護者への情報提供や保護者からの意見聴取の機会を設ける。 ⑮⑯	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第2学年	探究活動を通して、より幅広い知識やスキルを持った生徒の育成を図る。	自らが興味を持った課題を設定し、その解決に向けて主体的に活動し、自らが探究した成果をしっかりと説明できる生徒を育成する。探究活動を通して得た学びを、自身の将来設計に活かせることとする。①②	A	A <ul style="list-style-type: none"> 探究活動は、年間を通して活発であった。講演会でプレゼンテーションのやり方を教わり、そのスキルを中間発表やポスターセッションで披露できた。外部からの行使との交流もあり、貴重な体験となった。生徒にとって将来に役に立つ活動ができたと思う。 学習面では、生徒それぞれが自分の進路を少しずつ明確にしていき、それに向けて懸命に取り組んでいた。 光プロジェクトに関しては、生徒は十分参加していたが、もう少し積極性が欲しかったように思う。 小論文関連の指導は、国語科の方で徹底的に実施していただいた。検定試験を受験する機会もあり、生徒にとっては、勉強になったと思う。 各家庭との連携は、年間を通してしっかりとれていた。生徒に何かあった時も、級監の先生方が家庭連絡等で迅速に対応していただいた。級監の先生方を中心として、学年の先生方の対応により、保護者が安心できるような連携を取ることができたと思う。 修学旅行では、平和学習を通して、命や平和の大切さを、身をもって知ることができた。また、民泊では沖縄県の家庭で実際に生活することで、地元の体験をすることができた。このような様々な体験を通して、生徒の成長を感じることができた。 Classiマガジンは保護者への配信を続けることができた。もう少し配信の頻度を多くしたかった。来年度も継続したい。
		設定した課題の調査、取材、また成果発表会でのプレゼンの資料作成等において、インターネットでの情報収集などICTを積極的に活用し、社会に出て即戦力となるスキルを身につける。①②	A	
		聴衆を魅了するような話し方(スピードやトーンなど)を学び、相手に自分の研究成果を十分に伝えることのできるプレゼンテーションのスキルを身につける。①②	A	
		外部からの講師を招いての講演会では、その道のプロの話聞ける絶好の機会ととらえ、その内容をできる限り探究活動をしていくうえで活かすことを考えさせる。①②	A	
	自主的・自発的な学習習慣を確立させて、基礎学力の定着とより発展的な学力の育成を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けICTを利用するなど工夫された授業を中心に、小テストや補習等を通して生徒の基礎学力の定着を図る。個に応じた予習や復習の提案と、授業に連動した課題により自主的・自発的な学習の確立を目指す。③④	A	
		土曜補習や長期休業中の課外における演習等を通して応用や発展的な問題に触れさせる。ハイレベル課外を通して、大学受験を見据えた発展的・実践的内容にも対応できる力を培うとともに、難関大を志望する生徒の育成を行う。③④	A	
		模試やスタディーサポートの結果を分析し、各教科で生徒のタイプに応じた対応策を講じることで、生徒のモチベーションを上げ、自発的に学習に取り組めるよう促す。③④	A	
	進路決定に繋がる活動を充実させ、進路目標の早期設定を図る。	光プロジェクトで実施されている講演会への積極的な参加を促し、自分の進路を考えさせるとともに、進路実現に向けての具体的な行動を起こさせるようにする。①④	A	
		個別面談を随時行うことで生徒理解に努めると共に、学習や進路決定に対する相談を受けたりアドバイスを随時行うことで、具体的な進路目標の設定を促す。①④⑦	A	
		小論文模試や小論文ガイダンスを通して、書き方を学ぶだけでなく志望大学を意識させることで受験を自分事と捉えるきっかけとする。①④	A	
	社会の一員としての規範意識を高め、規律ある生活習慣の確立を促すことで、自立した人間の育成に努める。	各家庭との連絡を密にすると共に、生徒への声かけや面談等を随時実施して、安定した学校生活を送らせる。皆勤者80名以上の達成を目指す。⑪	A	
		集会・HR、修学旅行などの行事等を通して、協調性や規律を守ることの大切さについて考えることを促し、自律的に行動する姿勢を養う。⑥⑨⑩⑪⑰	A	
		面談期間等に個別面談を通じて生徒個々の実態を把握することで、適切な指導に努める。⑨⑰⑱⑲	A	
いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	修学旅行の平和学習を通して命や平和の尊さを学び、豊かな心と人間性を育てる。⑰⑱⑲	A		
	探究活動を通して持続可能な社会とは何かを意識させたり、修学旅行での異文化体験を通して異なる特徴や特性を受け入れる姿勢を育てたりする。①⑨⑰	A		
	部活動や学校行事等での友人との関わりを通して個性や多様性を理解させ、人への思いやりの心や豊かな人間性を育てる。⑨⑰	A		
	清掃活動の徹底、及び環境を美しく保とうとする姿勢を涵養し、あわせて周囲に対する気配りや思いやりの心を育てる。⑨⑫⑰	A		
文武不岐の実践を目指す。	各種行事、部活動への積極的な参加を促し、生徒の自主性やリーダー性の育成を図る。更に行事への参加を通じて得られる自己肯定感や達成感を共有することで、クラスの連帯感を育む。⑤⑥⑦	A		
広報活動の推進および地域との連携強化に努める。	第2学年「Classiマガジン」を実施し、学年の催しなどを定期的に保護者に発信することで、「開かれた学校づくり」に努める。⑬	B		
	学年PTAを通じて、学年の取り組みや進路に関する情報を積極的に保護者に提供することで、家庭との連携を図る。⑬	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3学年	生徒一人一人の進路目標達成のため、進路指導・学習指導の充実に努める。	生徒の様々な取り組みをデータ化して、生徒の強みや弱みを分析し面談に活かすことで、個別最適な受験指導に繋げる。また、模試のクロス分析を利用し、タイプごとの課題に応じた効果的な指導を展開することで、生徒の学力伸長に繋げる。 ③④⑫	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12月3者面談の実施の仕方について、6(7)時間目までやってから放課後に面談だとかなり遅い時間まで面談になってしまうので、期間を増やし、少し早い時間から初めるなどの工夫をしてもよい。 ・推薦でも探究内容について質問されたり、進学後に学びたいことについて質問されたりするので、探究の時間をはじめ生徒たちが主体的に調べたり考えたりする機会を増えるとよい。 ・3年次に生徒に書かせる志望理由書の内容が薄いので、志望大学について、志望理由書の作成を1年次から(遅くとも2年次から)継続して取り組ませるとよい。これにより探究のテーマも見つけやすくなるかもしれない。 ・Classiにより保護者や生徒への配信が手軽になったが、それゆえ配信が多くなり受け手が全てに目を通せているか心配である。
		新課程入試や各大学の情報について情報提供し、大学選択の視野を広げさせると共に、志望大学とのエンゲージメントを高めさせる。 ①②④	A	
		小テストや課題を通して基礎力を定着させ、課外や東大クラブ・上位者指導で総合力を鍛えるなど、幅広い進路に対応できる学習活動を展開する。 ②③	B	
		日頃より時事や社会問題に関するコンテンツ等を提供することで、問題意識をもたせ、自ら考える力や解決しようとする姿勢を育てる。 ①④	B	
		光プロジェクトの効果的活用、外部模試の積極的受験など、自ら学びに向かう姿勢を強化し、国公立大学合格者130名以上、難関国公立大学合格者20名以上を目指す。 ④	B	
	健全な心身の育成と規律ある生活習慣の確立を図る。	様々な活動において下級生の模範となれるよう、最上級生としての自覚と責任を意識させ、自らを律することができる力を育成する。 ⑨⑪⑰	C	
		声掛けや面談を通して生徒の状況を把握し、安定した学校生活が送れるようにサポートする。これにより1か年皆勤者100名以上、3か年皆勤者50名以上を目指す。 ⑪	A	
	いじめの未然防止及び早期発見・早期解消の確立に努める。	授業やホームルームでの生徒の様子に注意を払い、生徒が発する変化の兆候を見逃さないようにし、問題を未然に防げるよう努める。 ⑰⑱	B	
		悩みをもっている生徒については、一人の教員が対応するのではなく、学年全体で指導に当たることができるように学年会などで情報を共有する。 ⑰	A	
		インターネットやSNSを通じて行われるいじめやトラブルが起きないように、授業やホームルーム活動を通して、情報モラル教育を推進する。 ⑲	A	
広報活動の推進と、保護者及び地域社会との連携を図る。	Classiやホームページ、学年通信などを利用して、学年の取り組みや生徒の状況を発信することで、保護者の方が安心できる学年運営に努める。 ⑬⑮⑯	A		
	専門家による進路講演会等を実施し、新課程入試への不安や、初めて受験生をもつ保護者の不安を軽減できるようサポートする。 ④⑬	A		

※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない